

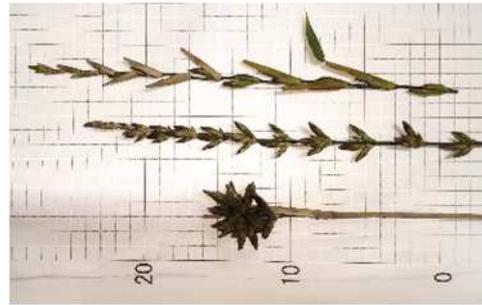
リョクチクの開花とその対策について

令和6年7月
森林技術総合センター

1. 開花の周期について

開花の周期はよくわかっておらず、数十年間隔と言われていました。

(参考：「暮らしに生きる竹」濱田甫 著)



リョクチク開花

2. 開花の原因について

開花は、植物の成熟段階に入った後、干ばつや洪水、害虫や病気、土壌の栄養不足等の外部環境の影響で開花すると考えられていますが、実際には諸説あり、リョクチクの開花の原因は解明されていません。(参考：台湾 農業有限公司記事)

3. 開花の影響について

開花した竹稈（樹木でいう幹の部分）は枯れますが、地下茎は生きているため、細くて小さい再生竹が発生します。そして、しばらくはタケノコの収穫は期待できません。

4. 開花への対策について

開花した竹稈は、再生竹の妨げになるため取り除きます。

再生竹は、切らずに残し、光合成による地下茎への養分供給をさせ、再生竹の株元に施肥を行い、地面が乾燥すれば散水を行います。なお、増殖を行う場合は、開花していない竹株から株分けをするか、竹稈を切り、竹苗を作ります。



リョクチク畑

5. その他

①用途（食用，工芸用）について

台湾原産のタケノコで、台湾では「たけのこの王様」と呼ばれるほど、よく食べられています。本県でも6月末から9月末頃にタケノコの収穫があり、えぐみが少なく、生でも食べられます。

②県内の分布について

昭和 40 年代に台湾や沖縄から奄美大島に自家消費のために導入されたことがはじまりで、県本土へは昭和 60 年頃、大根占町の台湾出身者が導入し、その数年後、根占町で本格的に増殖され、県内各地に広がっています。県内では、日置市日吉町が盛んな生産地で、日吉緑竹会では春頃に株分けした株苗を販売しています。

また、出水市はふるさと納税の返礼品として「夏たけのこ（リョクチク）」を取り扱っています。



リョクチク出荷

③県内での主な病気とその対策について

ア. メイガの仲間による葉の食害

県内での発生報告はありませんが、沖縄県で被害が報告されています。被害は、幼虫が葉を数枚巻き合わせてその中で食害します。防除法は、成虫が飛来または羽化する 6 月頃に誘蛾灯により捕殺します。また、幼虫が葉を巻いた後では薬剤の効果は低いため、葉を巻く前に登録殺虫剤（ディアナ SC 等）を散布するか、被害部分を発見したら焼却処分を行います。



セスジノメイガ成虫

セスジノメイガ幼虫

メイガ幼虫による被害葉

イ. 霜害や風害

病気に強い竹ではありますが、台湾原産のため、寒さには弱いです。対策は、冬場に株元にマルチを敷き、竹稈をゴザで巻きつけ、その中に落ち葉等を詰める方法があります。

また、台風等の強風により根が浮き、収量が落ちることがあるため、新竹のウラ止めや多すぎる枝葉の剪定、風が強く当たる側に防風林を造成することにより、風の影響を和らげることが必要です。